

Brown Bag Seminar



ブラウンバックセミナー

録画期間限定公開
オンライン (Zoom)

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

2021.12.22 (水)

登録はこちら

日 ↔ 英 同時通訳

12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 ◆ 演者紹介
12:15-12:40 ◆ プレゼン
12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_b4RumzF2SHyaYdkswhemAQ

近年の日本語・韓国語起源論と農耕の拡散

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

近年、言語学的立場から、古日本語と古韓国語が中国東北部地域南部で生まれ、東北アジアへ拡散したという仮説が欧米の研究者を中心に説かれています。従来、インド・ヨーロッパ語族やシナ・チベット語族の拡散を農耕の拡散と同一に捉える考古学的解釈がみられます。発表者は、東北アジア先史時代における農耕拡散 4 段階説を唱えてきましたが、これは環境変動に呼応した人の移動による農耕の拡散を主張するものです。この農耕拡散 4 段階説を利用して、インド・ヨーロッパ語族の農耕拡散説と同じように、古日本語と古韓国語の朝鮮半島や日本列島への拡散をみる見方があります。発表者は、こうした説を批判的に捉え、考古学的な解釈に基づき、古日本語と古韓国語の拡散を考えます。



宮本 一夫 教授

九州大学大学院 人文科学研究院

1982年京都大学文学部卒業、1984年京都大学大学院文学研究科修士課程修了後、1984年から京都大学文学部助手、1987年から愛媛大学法文学部助教授、1994年九州大学文学部助教授に着任、2002年九州大学人文科学研究院教授に昇進し、現在に至っています。この間、1991～1992年に北京大学考古系で、1997～1998年にハーバード大学エンチン研究所で研究員として在籍しました。また、2003年第16回濱田耕作賞、2019年第9回日本考古学協会賞大賞を受賞しています。2018年にはアメリカ芸術科学アカデミー外国人名誉会員に選出されました。

